

Libra I on 18

<http://www.libra-sc.jp>

vol.

りぶらいおん

特集：[第97回全国図書館大会]参加報告 第17分科会 ICTと図書館

事例発表：戸松啓二（LSC顧問・岡崎図書館未来企画）

「情報システムと危機管理—非日常的危機に対応できるために—」

「こんなにぶらになったらいいな！」

5年後・50年後のりぶらはどうなっていたらいい？

あなたの作文を募集します！

募集期間 11月12日～12月27日

対象 ①小・中学生 ②高校生 ③大学生・大人

文字数 1,200字以内

※作文の冒頭に題名、末尾に応募者の氏名・年齢
(学校名・学年)・住所・連絡先を記載してください。

提出先 りぶら市民活動センター

発表 2月26日(日) りぶらフォーラム

※発表作品には粗品を差し上げます。

[全国図書館大会] 参加報告

平成 23 年度 第 97 回全国図書館大会 多摩大会

開催日：平成 23 年 10 月 13 日（木）～ 14 日（金）

テーマ：広げよう、図書館のある暮らし

ーつなげよう知の拠点／続けよう Help-toshokan ー

主 催：日本図書館協会

あなたは "Librahack"(リブラハック) 事件をおぼえていますか。「なんだっけ?」と思っていても大丈夫。本文で「おさらい」ができます。ともあれ LSC 顧問は、日本図書館協会の依頼を受けて、この事件のその後を全国の図書館関係者に発信すべく、東京都調布市まで出かけてきました。大会当日の冊子に掲載された発表の要旨とともに、当日の様子などをレポートします。



第 17 分科会 ICT と図書館

10 月 14 日（金）

調布市文化会館たづくり 映像シアター

情報システムと危機管理

ー非日常的危機に対応できるためにー

戸松啓二（りぶらサポータークラブ顧問）



岡崎市・りぶら・LSC

岡崎市は愛知県の中央部に位置する、人口 37 万人の地方都市である。歴史的には徳川家康公生誕の地として知られ、近接する豊田市には世界的な企業となったトヨタ自動車本社がある。岡崎市にも製造業は多いが、農商業も発達しており、特に商業については近隣都市を合わせた 100 万人以上の商圈の中核となっている。

図書館交流プラザ・りぶら（以下：りぶら）は、図書館を核とした複合型の生涯学習施設として 2008 年 11 月に開館した。従来の図書館に比べ広さは三倍、蔵書は 1.5 倍ほどで、空間の演出や家具なども気が利いており、利用者の評価は高い。図書館以外にはホールや会議室、創作室などがある。

りぶらのサポータークラブ（以下：LSC）は、このりぶらを拠点に活動する、市民による公益活動団体だ。法人格はなく図書館友の会でもないが、市の生涯学習

りぶらサポータークラブ
会員数：25人
りぶらとその利用者をサポートする

推進計画の中で、市民協働を進めるパートナーとして位置づけられている。とはいえ、なにか特別な権限があるわけではない。気持ちと行動力を持った普通の市民の集まりだ。

LSC がサポートの対象としているのは、りぶらを拠点に活動する個人と組織である。そこには利用者である市民も行政のスタッフも含まれる。WEB サイトの利用者も同様である。市や図書館との関係は「協働」の一語に尽きる。行政の下請けではなく、圧力団体でもない、現実に即して主体性を持って活動する組織である。この点については、あとで具体的な取り組みとともに詳述する。



"Librahack" 事件のあらまし

そんなりぶらで事件が起きた。おそらくは情報社会の歴史に残る事件である。この事件については、まだ課題も多く定義もあやふやだ。ひとまず便宜的に概要を紹介するが、できれば LSC の WEB サイトから、同事件について行ったフォーラムの公式記録をダウンロードして、ご覧いただきたい。(http://www.libra-sc.jp/roject/2011033122514277.html)



さて、事件は二つの出来事で構成されている。まず、図書館の WEB 利用者が逮捕・勾留され「起訴猶予」となった事件だ。自作ソフトを使って、図書館の WEB サイトにアクセスしたところ、システムに不具合が生じサイトが閲覧できなくなった。問題は、その後の図書館や警察、業者の対応である。

ネット市民を中心に多くの疑問が投げかけられ、技術者や法律家など、各方面の専門家が参加する形で、全国で多くのフォーラムが開催された。ウィルス作成罪に絡んで国会でも取り上げられた。現在、図書館は「真因はシステムの脆弱性にあった」として、利用者の名誉回復に努めている。

そしてもう一つ、同じシステムにからんで、個人情報流出が起きた。これは岡崎市以外の複数の図書館で発生している。市としては、考えられるかぎりの厳しい処分を行ったとしており、現在新たなシステムの導入に向けて準備を進めている。

LSC は、利用者と図書館の和解に関わり、三者による "Librahack" 共同宣言を行うに至った。また、独自に識者を招いて "Librahack" フォーラムを開催し、その内容を WEB サイトや UStream で公開した。先に触れた公式記録は、これらの活動をまとめたものである。そして今も、継続的に改善に取り組んでいる。



相変わらずの館内と最もわかりやすい変化

さて、ここからが本題だ。いただいたタイトルを見ると「それで図書館は変わったのか？」と問われているような気がする。それを身近な第三者視点で紹介するのが、もっとも期待されていることだろう。早速、その期待に応えてみたい。

館内の様子が変わったところはない。もっとも、事件がメディアに取り上げられたときでさえ、いつもと変わりはない。市民や来館者の認識はその程度である。職員の対応も特に変わったという印象はない。そんな中、最もわかりやすく変わったのが、館長とIT担当者である。

新しい館長は財務畑の出身だ。財務というと、なんとなくお金に細かい冷たい人間をイメージするかもしれないが、まったく違う。もちろん数字には強いが、当たりの柔らかな温かみのある人だ。就任直後から精力的に図書館業務について学ばれ、その姿勢は今も変わらない。

新館長に、図書館で働いた経験はない。辞令は突然やってきて、受け取ったら即、図書館長である。世間には外部からプロの館長を招聘するケースもある。LSCは以前からそのような提案もしてきたが、今のところ市にはそうした考えはない。だからといって問題だとは思っていない。まさらかな感覚を持った行政のプロには、別の良さがある。

ちなみに、LSCとしては前館長のままでよいと思っていた。事件を実際に経験され、共同声明にも対応していただいた。実務的な変革を進めることを考えた場合、続投もありだと思っていた。ネットでは矢面に立って、いろいろ苦労されたが、前館長もしっかりした人だった。

新館長は、この8月にLSCからの新しい提案を受け入れてくれた。その内容は、図書館の運営に関して、より踏み込んだ話し合いの場を持つことだ。これによって非公式ながら「新たな市民協働の場」ができた。LSCとしては、ここから「非日常の危機対応」の根本的な解決につなげたいと考えているが、それはあとで触れる。

新しい図書館システムへの取り組み

大きく変わりつつあることとして、図書館システムについて触れておきたい。新しくやってきたIT担当は、市の情報システム出身だ。知識的にも経験的にもプロである。市が4年ほど前から進めている、システムに関するガバナンス強化の発案者でもある。

各部署が個別に導入していたシステムを調べ、台帳を作って一元管理をし、費用や機能についての適正化を進めるのだ。問題を起こした図書館システムは、こうした取り組みの前に導入されていた。今回は、市全体の取り組みと歩調を合わせながら、仕様決定や調達に関する新たなプロセスを経て進められている。

新しい図書館システムは平成25年1月の入れ替えを目指している。当面はオープンソースにはならないだろう。LSCとしては、かなり早い時期にオープンソースのシステムを紹介したが、実務的なバックアップ体制や移行業務の全容を鑑みて、採用提案を取り下げた。

図書館システムは、データベースひとつとっても膨大な量である。それを「なににごともなかったかのように」新しいシステムに移行させなくてはならない。これは相当厳しい仕事になる。しかし、ただ見送ったわけではなく、図書館の理解も得ながら5年後のエントリーを目指す。新たな契約には、オープンなシステムに向けた実験や研究を可能にする、これまでにない仕様が盛り込まれるはずだ。

新担当とも何度か話し合いの場を持った。彼が求めているのは、他都市とも共用できるオープンな図書館システムだ。日本全国で共通の仕様ができれば、導入も運用も機能拡張に関して、すべてのコストも下がる。そうなれば、資料代や人材、サービスに予算を廻すことができる。期待は大きい。

ウェブアプリは社会アプリ。



オフィスとウェブは家具と橋梁くらい違う。

個人情報も著作権も社会的なこと。

そこが理解されないと同じことは起き続ける。

行政担当は数年で移籍する

図書館のプロもITのプロじゃない

持続的な改善は市民協働でするのがいい

LSCとしては独自にサーバを用意し、フォーラムでも紹介を受けたオープンソース系図書館システム「Enju」をインストールした。秋からは正式に協力者を募り、まずは私設図書館のデータを使って動かしていく。その後、実データを使った実証実験や機能の拡張などに取り組む予定である。

これから変えるさまざまな課題

現状、人事とシステム以外に目立った動きはない。ただ、データの扱いについての意識は変わったという。それだけ強烈な出来事だったのだ。それでもフォーラムなどで見出された課題は手つかずのまま。いくつか具体例を挙げてみる。なお、図書館には改善の意志はある。それは確認済みだ。

まずは図書館協議会。今回のような「非日常の危機」が生じた場合、協議会は一定の役割を果たせる立場にある。しかし、そうした認識が内外にない。同じような認識の緩さは「図書館の自由宣言」についても感じる。内容は知ってはいるが、そこで止まっている。かみ砕いた形で実務に落とし込まれているとは言い難い。

フォーラムで提示された「来館者もネット利用者もともに図書館利用者である」という視点についても同様だ。知的に理解はできていても、具体的な活動として表現されていない。実際にはネット利用者だけでなく、地域図書館の利用者も視野に入れなくてはならない。

そして日々、新しい課題が生まれていく。それはどこの図書館も同じだろう。同じと言えば、人も予算もどんどん削られる。しかし利用者の要求は待ったなしだ。現在のレベルをキープするだけでも大変な仕事だ。それでも課題は解決したい。もっともっと良くしたい。そこでLSCとして提案したのが、先の新たな対話の場である。



体幹を鍛えて非日常の危機に備える

対話を通して最初に目指すのは、図書館に対する本質的な理解の深まりだ。任期の短い行政マンにとって、図書館で継続的に活動を重ねてきた、LSCの知識や経験は有効な情報となるはずだ。続いてそれを、実際の業務に落とし込んでいく。こうした取り組みには、マネジメント的な手法が役立つだろう。

図書館の存在意義を明らかにし、真の顧客に向けて本来の価値を提供する。このような大きな流れを作りながら、具体的な一つひとつの仕事の中で、意義や価値を感じられるようにする。いうなれば体幹を鍛え、身体の隅々にまでエネルギーを行き渡らせ、スッキリした健康な状態にするのである。

非日常の危機の多くは、予想もしない形で訪れる。対処療法では間に合わない。そこで求められるのは、組織的な免疫系の強化である。それがスッキリ健康ということだ。これはなかなか難しいことだが、不可能ではない。そしてまた完璧な状態というものはない。やった分だけ改善されるという足し算だ。

こうした取り組みの中で、先に挙げた課題が解決されていくことを期待している。そうすれば、一つひとつの取り組みの意味をわかった上で、こなれた形で具体化することができるだろう。



無理なく新しい協働の実現を

今後、図書館を巡る社会的な環境はますます変化するだろう。行政だけでは、社会のニーズは満たせなくなりつつある。だからこそ、協働という取り組みがうまれてきた。なにか新しいことを、新しい視点で取り組まなければ、協働の意味はない。そこには、ある種

の期待があるはずだ。LSCとして、"Librahack" 事件に関わる中で、その可能性を垣間見ることができたと感じている。

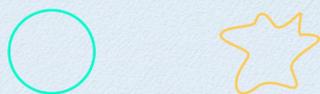
なぜか世間には、行政と市民を対立軸でとらえようとする風潮があるが、図書館と利用者の間には、もっと豊かで生産的な可能性がある。協働の主体は市民である。ウィキペディアにもそう書いてある。そして変化の主演は図書館に働く皆さんだ。

我々はともに有限な存在である。まず互いに、それをよく理解したい。有限だから、無茶は言わない。そして有限ながら、いくばくかの力もある。だからそれを持ち寄る。お互いの不足を思いやりをもって補い、相互に責任を果たそうとするところに、心の通う現実の協働が生まれるのだと思う。

りぶらは、その基本方針の中でも、協働の場と位置づけられている。そしてLSCは、協働のための市民団体として存在している。これからもささやかながら、無理なく新しいこの確かな取り組みを続けていきたい。

成熟社会への変化—— 熟すのか腐るのか

市民が主体になって協働する



足りない仕組みを作る

提案し、行動し、持続し、改善する

私益と共益と公益の関係

自己実現の豊かさを結び合わせる



主体と主役を間違えない

サポートの責任は事前にある

発表を終えて

..... ということで、お話をしてきたわけですが、実は準備をしていった原稿の2/3くらいしか話せませんでした。私の前に発表をした方たちの時間が押しすぎてしまい、時間が足りなくなってしまったのです。いささかトホホな大会参加でしたが、自分なりに考えたことがあるので書いてみます。

発表をしたり、その後のちょっとしたオフ会に参加して感じたのは、何ともとらえどころのない「ゆるさ」でした。切実さが感じられないのです。不安や問題を抱えている側も、その答を知っている側も、よく言えばゆとりがあり、悪く言えば他人事という感じでした。テーマであるはずの「危機意識」に切実さがありません。

私は当時の図書館長や "Librahack" 氏の顔を思い出して、なんだかひどく寂しい思いを抱えてしまいました。ネットを舞台にヒートアップする人々。かき立てる新聞。舵取りを間違えば、ふたつの人生に大きな傷を残しかねない状況がありました。

同じ目に遭う人が出る可能性は、今だってあります。大会に参加する数日前にも吹田市で類似の出来事が起きていました。発表後、質疑の時間を設けた中で、職場の人たちが萎縮してしまっているという声を聴きました。しかし、具体的にこうした問題を解決するための動きをするという話は、どこからも出てきませんでした。

だから私は、来年の2月25日を目標に、そのためのWEBサイトを作ることにしました。関係者の方たちは「そんなことをしたら大変だ」と言っていましたが、どのみち市民が勝手にやることです。できる範囲でやれる気楽さがあります。でも、やるからにはそれなりに..... と思っています。なぜこの日かといえば、"Librahack" 宣言が出された日だからです。

私はLSCの顧問として「市民による公益活動」という講座も持っています。先日の講座の中で参加者に対して「LSCの強みは？」と質問したところ、「思っていることを実現できること」という答が返ってきました。本当にそう思います。思うからやっちゃいます。そうやって、市民による主体的な協働を積み上げていくのです。

第2分科会 図書館評価

10月14日(金)

調布市教育会館 301・2・3

参加報告：戸松恵美(りぶらサポータークラブ事務局)

基調講演

「図書館の経営計画と評価」

岸田 和明(慶應義塾大学文学部 教授)

ほぼ満席の会場で、近年「図書館評価」の評価への関心の高まりを感じた分科会でした。基調講演は、ここ数年の図書館を取り巻く環境の変化からの、戦略的な図書館経営と評価の必要性と、図書館評価に関する標準基準の確立の必要性について話されました。

しかし、日本の公共図書館における評価の実態は、蔵書冊数や貸出冊数などの業務統計に基づいた評価の実施が約34%、その中で数値目標を設定している自治体は半数以下。来館者調査に基づく評価の場合は、約14%、PDS(Plan・Do・See)の一環として評価を活用しているのは、約17%と、全国公共図書館協議会が2008年に行った調査結果となっていて、この調査が規定する「図書館評価」は、まだ日本の公共図書館では普及していないのが実情ということでした。

むやみに「評価ありき」で始めた場合には、必ずどこかで壁にぶつかるとのことと、評価にかかるコストと業務の改善とサービスの向上のバランスを問題点として、講演を締めくくられました。

つづいて、以下の報告と事例発表がありました。第17分科会への参加のため、A4・34枚にわたる資料を手に入れ、会場を後にしました。事例発表の資料を読むと、図書館と市民による協働の評価システムをどう作り上げていくか、がポイントだと感じました。LSC「岡崎図書館未来企画」の評価指標づくりは、昨年のアンケート調査から足踏み状態ですが、改めて、取り組みの必要性を感じましたので、図書館とのコミュニケーションを欠かさず、作業を進めていきたいと思えます。

報告：「これからの議論のために
～図書館評価プロジェクト中間報告について～」
(西東京市谷戸図書館)

事例報告：「横浜市立図書館の目標について」

事例報告：「豊中市の図書館評価について」

事例報告：「町田市の図書館評価」

※右上の図は、LSC「岡崎図書館未来企画」が考えた「図書館機能」を図式化したものです。



第13分科会 児童・青少年サービス

10月14日(金)

立川市女性総合センターホール

参加報告：山田美代子(りぶらサポータークラブ代表)

基調講演

「本の森を豊かに一入り口から出口までの責任」

荒井 督子(公財 東京子ども図書館 評議員)

「貴重な税金を使って図書館に本を買う」ということの責任を、きちんと心に留めて選書をするように話された。多くの図書館の子ども本の貸出ベスト10が、子どもに人気のあるシリーズものになっている。ほんとうに子どもに読ませたい本かどうか、読んで何人かで検討し、それをどう配架するかなど、図書館の職員に、是非聞いて欲しい講演でした。

事例発表：「子どもと本をつなぐフロアワーク
～広い意味でのレファレンス」

事例発表：「レファレンス・おはなし会・ブックリスト
作成に役立つ独自データベースの作り方」

事例発表：「児童サービスにおけるレファレンス」

事例発表「子どものレファレンスを読書につなげる
～111枚の自由研究アイデアカード集の試み～」

以上の4つの事例発表がありました。その中ですぐ役立つようなものが、「111枚の自由研究アイデアカード集の試み」でした。自由研究につなげられそうなキーワードで実験したり、実体験の方法とともに、それにふさわしい本を紹介してあるカードを都立多摩図書館が作って、夏休みに展示・実験・カード配布をした報告でした。11月中旬以降にホームページに載せるということなので、そこで詳しいことを見たいと思います。岡崎でも、図書館と協働で実現できないかと思いました。



11・12月 りぶらイベントガイド

催しの予定は変更になることがあります。詳細は主催者へお問い合わせください。

日時	イベント名	料金	問合せ先
11月1日(火) 10時～	「おかざき市民活動情報ひろば」活用講座 10:00～17:00のうち、1団体90分程度 ホームページの基本的な使い方を学びます	無料	りぶら市民活動センター 23-3114
11月3日(木) 13時半～15時半	LibraMusicFestival アマチュアミュージシャンによる音楽コンテスト 前年優勝者のミニコンサートコンテストの表彰式	無料	図書館交流プラザりぶら 23-3100
11月4日(金) 14～16時	アメリカあれこれー American Kaleidoscope- ー① 北米人の考え方、生活、文化を学ぶ	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月5・6日 13時～18時	内田修ジャズコレクション映像資料視聴会	無料	図書館交流プラザりぶら 23-3100
11月6日(日) 14～16時	ワールドレクチャー(バングラデシュ) ～今を生きるバングラデシュの女性たち～	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月8日(火) 10～12時	男女共同参画講座 新米ママの料理教室Ⅱ①(全4回)	4回分 2,000円	文化活動推進課 23-6222
11月10日(木) 10～11時半	和文化交流サークルなでしこ きもの着付け教室(全8回 木曜開講)	1回 1,000円	牧野いづみ 54-4930
11月11日(金) 11～16時	地域市民セミナー案内窓口&ひざかけづくり	無料	市民の気持ち研究会事務局 森 090-8136-1680
11月11日(金) 14～16時	アメリカあれこれー American Kaleidoscope- ー②	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月12日(土) 10～20時	『りぶらまつり2011』 りぶらで見つけよう、はじめの一步	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
11月13日(日) 10～17時	オープニングセレモニー 12日9:30～		
11月15日(火) 10～12時	男女共同参画講座 新米ママの料理教室Ⅱ②	4回分 2,000円	文化活動推進課 23-6222
11月17日(木) 10～12時半	男の料理教室 秋刀魚の蒲焼き他:魚の三枚おろしに挑戦しましょう!	1,200円	NPO 法人食育推進ネットワー ク・岡崎支部 58-8069
11月18日(金) 14～16時	アメリカあれこれ -American Kaleidoscope ー③	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月18日(金) 14～15時半	ボランティア茶話会	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
11月19日(土) 13時半～15時半	みんなでつくろう!「空飛ぶクリスマスツリー」	無料	図書館交流プラザりぶら 23-3100
11月19日(土) 13時半～15時半	eまなび EM 健康野菜づくり講座(毎月第3土曜) ～楽しい家庭菜園をサポートします～	500円	岡崎額田 EM ひろば 22-5592
11月20日(日) 14～15時半	歴史文化講座 「本多忠次の邸宅思想Ⅱ」①	無料	社会教育課 23-6653
11月20日(日) 10～12時	ワーク・ライフ・バランス講座「誰でもできるお助けマ ン～介助実践編」①	無料	文化活動推進課 23-6222



日時	イベント名	料金	問合せ先
11月21日(月) 10～12時	性の科学と健康講座【大人講座】	1,000円	勇気づけの子育て陽だまりの会 080-5137-9192
11月21日(月) 10～12時	男女共同参画講座 新米ママの料理教室Ⅱ③	4回分 2,000円	文化活動推進課 23-6222
11月22日(火) 14～15時半	生涯学習シンクタンク	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
11月24日(木) 10～12時	PTNA OKAZAKI Series Seminar 美しい響きのために	4,000円	(社)全日本ピアノ指導者協会 (PTNA) 岡崎支部 0566-74-0566
11月25日(金) 14～16時	アメリカあれこれ -American Kaleidoscope -④	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月26日(土) 9時半～12時半	りぶらまつり実行委員会⑤(反省会)	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
11月26日(土) 13～15時	男女共同参画推進講演会 サテライトセミナー 「地域防災に男女共同参画の視点を」	無料	文化活動推進課 23-6222
11月27日(日) 10～12時	ワーク・ライフ・バランス講座 「誰でもできるお助けマン～介助実践編」②	無料	文化活動推進課 23-6222
11月29日(火) 10～12時	男女共同参画講座 新米ママの料理教室Ⅱ④	無料	文化活動推進課 23-6222
12月3日(土) 13時半～15時半	みんなでつくろう!「空飛ぶクリスマスツリー」	無料	図書館交流プラザりぶら 23-3100
12月3日(土) 13時半～15時	絵本画家スズキコージさんといっしょに作ろう 色紙を使って切り絵で万国旗を作る	無料	中央図書館 23-3111
12月8日(木) 14～15時40分	シネマ・ド・りぶら 映画上映会 『誓いの休暇』	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月17日(土) 10時～	冬のコンサート	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月17日(土) 14～15時半	歴史文化講座 「本多忠次の邸宅思想Ⅱ」②	無料	社会教育課 23-6653
12月18日(日) 10～12時	りぶら いきものみっけ隊	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月18日(日) 10～12時	LSC コーディネーター養成講座④ 「LSC 活動の意味」	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月20日(火) 14～15時半	生涯学習シンクタンク	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月23日(金) 10～12時15分	子どものクッキング	1回 1,200円	NPO 法人食育推進ネットワー ク・岡崎支部 58-8069





りぶら中央図書館情報

“県図書館で借りて→岡崎で返す”

< 期間限定 > 愛知県図書館 遠隔地返却制度を試行実施中!

館内に掲示されているポスターでご存じの方もいると思いますが、～2012年2月29日まで、愛知県図書館が遠隔地返却制度を試行実施中です。直接、県図書館で資料を借りても、岡崎市立中央図書館で返却することができます。県図書館の資料を、内容確認してから借りたい方や、名古屋に行ったついでに、県図書館で興味のある本を見つけた方は、この制度を試行期間内に、ぜひご利用ください。

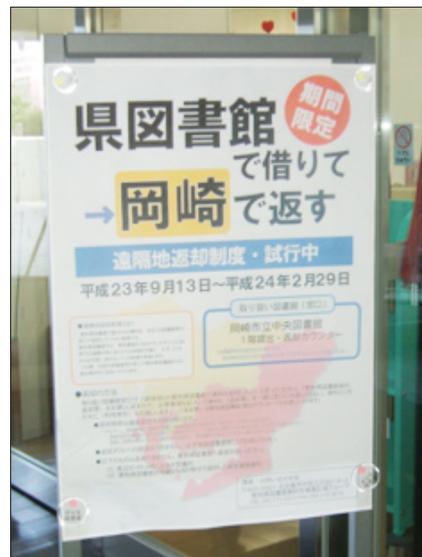
☆愛知県図書館 遠隔地返却制度(試行)とは☆

愛知県図書館で借りた資料を、最寄りの図書館の窓口で返却できる制度。

2011年9月13日(火)～2012年2月29日(水)の期間限定で、試行実施しています。岡崎市立中央図書館の「1階レファレンスライブラリーの貸出・返却カウンター」にて受付します。詳細は館内掲示ポスター、または1階レファレンスカウンターで配布しているチラシをご覧ください。

☆ご注意☆

- ・愛知県図書館所蔵資料が対象です。
- ・返却ポストや地域図書室では返却受付できません。
- ・当館で受け付けるのは、岡崎市内在住の方に限ります。



レファレンス事例集 13

岡崎市立中央図書館でこれまでに受けた資料相談事例を紹介します。「へえ～、図書館でそんなことがわかるの!」と感動(?)できるネタ満載ですよ。

国立国会図書館レファレンス協同データベース <http://crd.ndl.go.jp/GENERAL/servlet/common.Controller> より

質問	OPACで「徳姫」で検索した資料やA233シ『新編岡崎市史中世2巻』、A280ヒ『尾三の女たち』は閲覧済み。 それ以外で、徳川信康の室、徳姫についての資料はないか。 特に離縁後、京都などで過ごした晩年のことがわかるとよい。
回答	【所蔵資料】 ① 289.1ノ『事典信長をめぐる50人』東京堂出版(197-202p) ② Z『日本歴史(404号)』吉川弘文館より「岡崎殿異聞」岩沢愿彦/著(57-60p) 【相互貸借サービス】(他館から借り受け) ③『古文書研究(13)1979年6月号』日本古文書学会より 「岡崎殿—徳川信康室織田氏」奥野高広/著(62-72p) ④『歴史読本2003年5月号(第48巻第5号)』新人物往来社より 「徳川信康室 徳姫」平野明夫/著(100-107p) ※現在、③④については所蔵館に許可をいただいて該当箇所を複写し、当館パンフレット資料として閲覧できます。
プロセス	徳姫は「五徳」「岡崎殿」とも呼ばれていたことに気付き、キーワード「岡崎殿」でOPAC、ネット等で検索。 ②所蔵確認。 所蔵はないが③④の書籍があるとわかる。 ③④を相互貸借サービスで所蔵館に借り受け依頼をする。
レファレンスツール	CiNii(NII論文情報ナビゲータ[サイニイ]) http://ci.nii.ac.jp/ 愛知県内横断検索 http://www.aichi-pref-library.jp/oudan/aichi_oudan_f.htm 国立国会図書館 総合目録ネットワーク(ゆにかねっと) http://unicanet.ndl.go.jp

りぶら映像アーカイブス

岡崎市立中央図書館 2 階の視聴覚ブースでは、ビデオや DVD などの館内資料だけでなく、年代別にアーカイブス化された岡崎に関する貴重なニュース・番組映像を視聴することができます。懐かしい映像のなかに、ひょっとして、あなたも登場しているかも?!

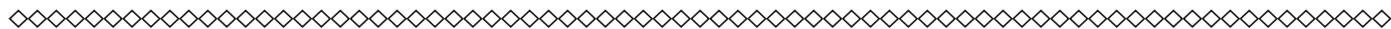
紹介映像 13 「町並み探訪～藤川町」
NHK ニュース放送年：平成 3 年 (1991 年)



東海道の江戸日本橋から数えて 37 番目の宿にあたる藤川宿。訪れた松尾芭蕉は「爰(ここ)も三河 むらさき麦の かきつばた」という句を残したといわれ、江戸時代末には旅籠屋・駕籠屋合わせて 36 軒が建ち並んでいたそうです。

映像では、前年の 1990 年に脇本陣跡に整備された藤川宿資料館と近辺の町並み、そして松並木の様子が映されています。

現在藤川地区では、東部地域交流センターと、地域振興施設の「(仮称)道の駅・藤川宿」の整備が進められています。供用開始予定の平成 24 年度には、藤川のまた新たな姿が、私たちの目の前に現れることでしょう。



私の一冊 vol.13

安房直子コレクション5から

『熊の火』 安房直子：著 偕成社



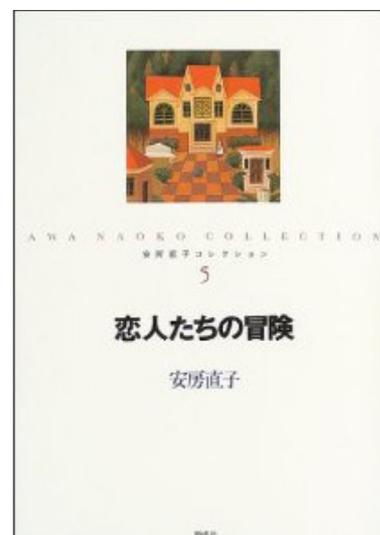
鈴木千鶴(すずき ちづる)

りぶら市民活動センターで、市民活動支援のお手伝いをしています。市民活動センターには、岡崎市民のためにいろいろな活動をされている方がみえます。そんな方々がもっと活躍できるよう応援できたらいいなと思っています。最近老眼(!)なのか、小さい字が読めなくなってきました。でも、電子書籍ではなく、いつまでも“紙”で読みたいです。

安房直子が好きだ。

作品の中に散りばめられる、色・におい・木々や花・てざわり・料理やお菓子・音... その表現は、抒情豊かで、ありったけの想像力をかきたてられる。描きだされる世界には、別れ、せつない恋心、死の影がつきまとう。児童文学のジャンルにありながらも、決して明るいばかりではない、‘もの哀しさ’がある。私は、その‘安房直子’ワールドにとりつかれた一人だ。

「きつねの窓」「ハンカチの上の花畑」「はるかぜのたいこ」他、メジャー級の作品はさておき、私は「熊の火」が好きだ。楽園(熊の世界)を捨て、人間界へ戻ってってしまった夫を追いかけ、熊の娘が山を下りてくる。「山を焼きながらきました。あなたにひと目あいたくてき



ました」そこにはひとすじの火の道。そしてあとには——「それまで咲いていなかったまんじゅしゃげの花が、まるでくさりのように、つらなって咲いていた」。なんて美しい。なんて哀しい。なんて切ない。切ない。切ない。

【本は図書館で借りる】派の私が、安房直子コレクションだけはどうしても手元に持っていたくて、全7巻購入しました。宝物です。

りぶら近辺のお店紹介

まちの会議室

本町清明ストリートにある「まちの会議室」を訪れ、マネージャーの和田さんにお話を伺いました。岡崎商工会議所が支援している「まちの会議室」は、その名の通り、町内会や商店の方たちや商工会議所関係の会議が、月3～4回くらい開かれているそうです。康生の商店の方たちによる「まちゼミ」も、ここでの世話人から実現しています。

また、入口近くには岡崎商業高校の生徒さんによる「おかショップ」の商品が置かれています。今回は学校の行事と重なって、高校生の皆さんに会うことが出来ませんでした。月・水・木・金・土曜日の4時～6時にはここにきて販売をしているとのことでした。福祉関係の石鹸やEM団子などが置いてあるので、それを求めに来る常連さんがいらっしゃるそうです。

会議室の白い壁には、ケビン・コスイナーさん監修の、若い人の現代的な素敵なイラストが飾られています。詩や歌の歌詞は、ケビンさんによるものだそうです。せつ



かくのイラストなので、多くの人に見ていただけるといいなと思います。

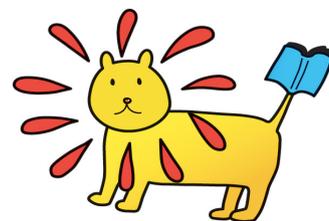
昨今の財政難により、家賃や人件費などを工面するのは大変だそうですが、まちづくりや商店街の発展のためにと、大家さんや商工会議所がこの「まちの会議室」を維持してくれています。友達を連れてきて、少しでも支援できたらと思った取材でした。(美代子記)



りぶらで活動する市民活動団体の紹介コーナーを設けます。活動の写真2～3枚と、800字前後の原稿を送って下さい！

りぶら周辺のお店情報を募集しています。写真2～3枚と、800字前後の原稿を送って下さい！

りぶらに関するコラムや利用者の投稿を募集しています。400字前後の原稿を送って下さい！



りぶらいおん©LSC



からのお知らせ

「Libra I on」を活用しよう！
原稿を募集しています！
原稿は info@libra-sc.jp へ。
随時受け付けています。



岡崎市図書館交流プラザ からのお知らせ

◎駐車場無料サービス時間変更について
図書館交流プラザを利用されるかたは、りぶら駐車場及び提携駐車場を利用した際に「駐車料金は3時間を上限に無料」としていましたが、駐車場の混雑緩和や公共交通機関への転換促進を図るため、10月6日から「無料時間の上限は2時間」に変更になりました。
皆様のご理解とご協力をお願いします。
岡崎市図書館交流プラザ TEL(0564)23-3100

Libra I on vol.18 2011/11/1 発行 2008/11/1 創刊 ◆編集・発行：りぶらサポータークラブ
〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地 岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内
TEL/0564-23-3114 FAX/0564-23-3142 info@libra-sc.jp <http://www.libra-sc.jp>

(1) 個人会員：年会費 2,000円
(2) 団体会員：年会費 2,000円
(3) 賛助会員：1口 1,000円(随時)